

# KDラスターコンバート

(ベクター/ラスター変換)

# OFI x RS

# OFI x RSC



Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

## 特 長

- MICRO CADAM/OFI (ver1.0 から ver3.0) からラスターデータへ変換します。
- コマンドラインから入出力ファイル名をキーインする事で実行されます。(標準入出力が利用可能)
- 実行時各入出力フォーマットの属性パラメータやオプションパラメータを設定できます。
- スケール、回転、原点移動、センタリングなどの処理が可能。
- 指定ファイルまたはフォルダ毎の一括変換が可能。

## 動作環境

機 種	OS
SUN/SPARC	Solaris 2.5.1 以降
HP9000	HP-UX 11i V2 以降
IBM/RS6000	AIX4.1.5 以降
パソコン版	<Windows> 2000 / XP / Server 2003 / Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2
	<LINUX> x86 系 32 ビット版

## 製品一覧

製品名	製品仕様	標準価格 (税抜き)
OFI2RS	A0 対応版 (A0/600DPI) (JIS 第一水準漢字対応)	35 万円
OFI3RS	長尺対応版 (6A0/3000DPI) ※1 (JIS 第一水準漢字対応)	45 万円
OFI2RSC	A0 対応版 (A0/600DPI) モノクロ・カラー併用版 (JIS 第一水準漢字対応)	50 万円
OFI3RSC	長尺対応版 (6A0/3000DPI) ※1 モノクロ・カラー併用版 (JIS 第一水準漢字対応)	60 万円

※1:10mまで出力可能です。

## 操作方法

上記の実行ファイルは、コマンドラインアプリケーションです。  
通常のコマンドと同じようにコマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込む事ができます。  
Windows の場合は、「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。  
変換時にオプションを指定したり、属性データ変換パラメータファイルの内容を変更する事で様々な変換処理が可能となります。

OFI からラスターデータに変換するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
実行モジュール 入力ファイル -0 出力ファイル -各オプション
```

### [操作例]

OFI<sub>x</sub>RS を使用して OFI ファイル(sample. ofi) を TIFF ファイル(sample. tif) に変換する場合には以下のように入力して変換します。

```
D:¥>OFIxRS sample. ofi -0sample. tif -Zrasl_out. atr -AL -l -Uofi_in. atr  
  
Copyright(c) 1992-2011 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.  
  
ofi(sample. ofi) -> RASTER(sample. tif) ファイル コンバータ  
  
ただいま、ファイル変換中です。  
  
OFIxRS 変換終了
```

OFI<sub>x</sub>RS : 実行モジュール名(例:OFI<sub>2</sub>RS)  
sample. ofi : 入力ファイル名  
sample. tif : 出力ファイル名  
rasl\_out. atr : 出力属性ファイル名  
-0 : 変換結果を出力するファイル名を指定するオプション。  
マイナス記号とアルファベットの「オー」です。  
-0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。  
変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定する事はできません。

※ オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。  
※ オプションの詳細についてはオプションの項目を参照下さい。  
※ ファイル名の指定があるオプションの文字数は最大 255 文字とします。  
※ OFI<sub>x</sub>RSC も同様です。

## オプション

- O : 変換後のラスターファイル名を指定します。
- A : オートスケールの設定(用紙サイズ一杯に出力されます。)
- AJ : 指定した用紙サイズより大きい場合のみ、自動的に用紙サイズに合わせて縮小スケールリングします。
- AL : 入力データから用紙サイズを自動認識して中央に配置します。  
無条件で A 系列用紙出力となります。(長尺サイズは除く)
- AG : OFI データの最小値を自動的に第一象限の原点座標 (0, 0) に移動させます。  
入力サイズの最小値を原点へ移動するので余白部分が削除されますが  
出力属性パラメータファイルの「AUTO\_OFFSET\_X, Y」を指定する事で原点からの  
余白マージンを設定する事ができます。
- M : ラスター出力がマルチページに対応したフォーマット (TIFF, FX\_RASTER 等) の  
場合に指定されたラスターファイルの最後に追加に出力されます。  
(OFI2RSC, OFI3RSC の場合は TIFF のみ)
- P[paper] : 用紙サイズを番号で指定します。(0:A0 横, 1:A1 横, 20:A0 縦, 21:A1 縦等)
- LS : 用紙サイズが A0 版を超える場合に指定します。  
実際の指示は-P オプションによって行います。(OFI2RS, OFI2RSC のみ)
- LD : 出力解像度が 600DPI を超える場合に指定します。  
実際の指示は出力属性パラメータ (OUT\_RESOLUTION) で行います。  
(OFI2RS, OFI2RSC のみ)
- TR : 線分の重なり部分の出力を透過モードに指定 (OFI2RSC, OFI3RSC のみ)
- CMAP : カラーのラスターファイルへ変換する際にインデックスカラーに変換します。  
指定しない場合はフルカラーとなります。(TR パラメータ設定時に有効)
- MONO : カラー出力でなく、モノクロ (2 値) に変換します。(OFI3RSC, OFI2RSC のみ)
- R[otation] : 出力時の回転角度を指定します。(0, 90, 180, 270 度 (反時計方向))
- S[scale] : 全体のスケール値を指定します。
- X[xoff] : X 方向のオフセット値設定。[単位:0.01 mm]
- Y[yoff] : Y 方向のオフセット値設定。[単位:0.01 mm]

-BATCH[batch\_file] : バッチファイルを使って、複数ファイルを一括処理します。

#### <使用方法>

処理の内容を記述したバッチファイルを-BATCH オプションで指定して実行します。  
(各変換処理のログを残す場合は、-RIREKI オプションも指定します。)

```
OFI2RS -BATCH バッチファイル名 [-RIREKI 履歴ファイル名]
```

#### <バッチファイルの作成方法>

- ・ バッチファイルはテキスト形式で、1行につき1件の処理を記述することができます。行数に制限はありません。各行には、入力ファイルやオプションパラメータなどをコマンドラインに記述すると同様の形式で記述します。この時、実行モジュール名(OFI2RS)は記述しません。通常は次のような形式になります。

```
入力ファイル -O 出力ファイル [オプションパラメータ]
```

- ・ 入力ファイルと出力ファイルの指定では、ワイルドカード(「\*」など)を使うことができます。入力ファイル名でワイルドカードを使うと、それに該当するファイルすべてについて、それぞれ処理が行われます。出力ファイル名にワイルドカードを使用すると対応する入力ファイルの拡張子を変更したものが出力ファイル名となります。(従って出力ファイル名には、必ず拡張子を指定する必要があります。)
- ・ 通常は、バッチ処理の途中でエラーが発生しても処理を続行しますが、次の行をバッチファイルの先頭部分に記述しておく、エラーが発生した時点でバッチ処理が中断されるようになります。

```
$break
```

- ・ 先頭が「#」の行はコメント行とみなされ、無視されます。

#### <バッチファイルの例>

- ◇ 変換を行うファイル名を指定して変換処理を行います。

```
sample1.ofi -Osample1.tif  
sample2.ofi -Osample2.tif  
sample3.ofi -Osample3.tif
```

- ◇ dir\_a のフォルダ内の拡張子が ofi のすべてファイルを、dir\_b のフォルダへ拡張子のみを tif へ変更して変換を行います。

```
dir_a/*.ofi -Odir_b/*.tif (UNIX 系)
```

あるいは

```
dir_a%*.ofi -Odir_b%*.tif (Windows 系)
```

※パスの指定方法が UNIX 版 (/) と Windows 版 (%) と異なりますのでご注意ください。

#### <実行例 (Windows 版)>

```
・ dir_a%sample1.ofi -> dir_b%sample1.tif  
・ dir_a%sample2.ofi -> dir_b%sample2.tif
```

- ◇ 途中で変換エラーが発生したら変換処理を中断したい場合

```
$breakdir_a%*.ofi -Odir_b%*.tif
```

- ◇ 拡張子 ofi のファイルをすべて連結して1つのマルチページファイル multi.tif に変換します。(注: この処理はマルチページ出力可能なフォーマットのみ有効)

```
*.ofi -Omulti.tif -M
```

#### <制限事項>

- ・ バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は最大 255 文字までとなります。
- ・ スペースを含むファイル名を指定する事はできません。
- ・ 入力ファイル名にワイルドカードを指定した場合、処理されるファイルの順番はアルファベット順になります。なお、1回のワイルドカードで変換できるファイル数には制限はありませんが大量のファイルを一括で変換する場合には、数回(1000 ファイル単位)に分けて変換を行って下さい。
- ・ 出力ファイル名には、必ず拡張子を指定して下さい。
- ・ バッチファイルの中に-BATCH オプションを記述する事はできません。

#### <バッチファイル作成上の注意>

- ・ バッチファイルはテキスト形式で作成して下さい。(例: Microsoft Word で作成する場合は『テキスト改行』でファイルを保存して下さい。)
- ・ バッチファイル内の項目は半角英数字で作成して下さい。

## 属性データ変換パラメータファイル

属性データ変換パラメータファイル(以下、属性ファイル)とは、変換を行う際に入出力フォーマットに対しての変換仕様を設定するファイルとなります。  
設定の変更を行う際には、テキストエディタを使用して編集を行います。

属性データ変換パラメータファイルには、初期状態では

OFI 入力用 ..... ofi\_in.atr  
ラスタ出力用(モノクロ)..... rasl\_out.atr  
ラスタ出力用(カラー)..... rascl\_out.atr (OFI2RSC, OFI3RSC の場合)  
があり、この内容を変更する事で種々な変換が可能となります。

### ■入力属性データ変換パラメータ

HML\_COLOR : OFI データの太線(H)/中線(M)/細線(L)に色番号を指定します。  
HML\_LINWIDTH : OFI データの太線(H)/中線(M)/細線(L)に線幅を指定します。  
IN\_SYMWD : 入力データの文字幅の尺度を指定します。  
INSYMH : 入力データの文字高さの尺度を指定します。  
TEXT\_LINWIDTH\_ENABLE : OFI データの文字の線幅を有効にするかどうか設定します  
DASH\_PATTERN\_MODE : 線分の線種パターンの調整を行うかどうか指定します。

### ・OFI 入力データ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (ofi\_in.atr)

```
#####ofi_in.atr#####  
#pen & line_color table  
#PENCOLOR=(P1=1, P2=2, P3=3, P4=4, P5=5, P6=6, P7=7, P8=8)  
#symbol_height_scale  
IN_SYMHT = 1.0  
#symbol_width_scale  
IN_SYMWD = 1.0  
#pen & layer table (DXF_OUT, DWG_OUT)  
PENLAYER=(P1=L1, P2=L2, P3=L3, P4=L4, P5=L5, P6=L6, P7=L7, P8=L8)  
#fill pattern mode (0:output_fill, -1:input_fill (default), -2:fill_off  
FILL_MODE = 0  
#pen width/color table(H, M, L-->color)  
HML_COLOR=(H=1, M=2, L=3)  
#pen width  
#HML_LINWIDTH=(H=0.3, M=0.2, L=0.1)  
# input dash pattern length (Y:available, N:ignore(default))  
#DASH_PATTERN_MODE = Y  
#text line width (Y:available, N:ignore(default))  
#TEXT_LINWIDTH_ENABLE=Y  
#####end ofi_in.atr#####
```

(注)1 カラム目が#の時は、コメントラインとなります。

## ■出力属性データ変換パラメータ

OUT_VERSION	: 出力データフォーマットを指定します。
ATR_LINWIDTH	: 線幅の使用区分を指定します。
COLORWIDTH	: 出力データの線幅を変更
OUT_RESOLUTION	: 出力データの解像度を変更
OUTPUT_SIZE_X(Y)	: 出力データの出力範囲を変更
CUT_SPAC_AREA	: 自動スケール(-A, -AJ)で発生した片軸の余白カットの設定
COLORRGB	: カラー出力(OUT_VERSION=FX_RASTERのみ可能)の設定(※3の場合) 出力データのRGBの色を変更(※2の場合)
SYMBOL_LINewidth	: OFI データ中の文字を描画する際の線幅を指定
A_PAPER_OUT	: 出力データをA系列の用紙サイズに設定
BYTE_BOUNDARY	: 出力されるドット数の縦/横ドット数の設定(8, 16, 32 ビット単位)
OUTPUT_DOT_X(Y)	: 出力サイズをドット指定
COLOR_YUSEN	: 重なった図形の出力順番を指定 ※2
PAPER_SCALE	: 長尺用紙のスケールと回転の自動処理の ON・OFF 設定 ※1
XX_OUT_SIZE_X(Y)	: 自動処理のスケールの設定 ※1 ※4
XX_OUT_ROTATE	: 自動処理の回転の設定 ※1 ※4

※1 OFI3RS, OFI3RSC のみ設定。

※2 OFI2RSC, OFI3RSC のみ設定。

※3 OFI3RS のみ設定。

※4 XX は用紙サイズ。(例 1:A0\_OUT\_SIZE\_X, 例 2:A1\_OUT\_ROTATE)

### ・ 出カラスターデータ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (rasl\_out.atr)

```
#####rasl_out.atr#####
# format type (TIFF, SUN_RASTER, XWD, MMR, MR, MH, CALSG4, BMP etc.)
#OUT_VERSION=TIFF_NON
#OUT_VERSION=TIFF_PACK
#OUT_VERSION=TIFF_G31D
#OUT_VERSION=TIFF_G3_MH
#OUT_VERSION=TIFF_G3_MR
OUT_VERSION=TIFF_G4
#OUT_VERSION=SUN_RASTER
#OUT_VERSION=SUN_MMR
#OUT_VERSION=XWD
#OUT_VERSION=MMR
#OUT_VERSION=MR
#OUT_VERSION=MH
#OUT_VERSION=CALSG4
#OUT_VERSION=IOCA_IBMMMR
#OUT_VERSION=IOCA_NON
#OUT_VERSION=IOCA_G4MMR
#OUT_VERSION=BMP
#OUT_VERSION=MIEL
#OUT_VERSION=HPRTL_ROW
#OUT_VERSION=HPRTL_NON
#OUT_VERSION=HPRTL_PACK
#OUT_VERSION=HPRTL_MH
#OUT_VERSION=HPRTL_MR
#OUT_VERSION=HPRTL_MMR
#OUT_VERSION=FX_RASTER
#symbol height_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMHT=1.0
# symbol width_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMWD=1.0
# symbol space (unit:mm) (0.0 --> 99.99)
OUT_SYMSP=0.0
#line type pattern set(pattern_length * scale_factor) (unit:mm)
#DOT_LINE = 1.0, 1.0
#DASH_LINE = 2.0, 1.0
#CENTER_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
#DIVIDE_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
#ATR_LINewidth = N
#ATR_LINewidth = Y
# color/width cross conversion table (max 256 tables)
COLORWIDTH=(C0=0.1, C1=0.1, C2=0.2, C3=0.3, C4=0.4, C5=0.5, C6=0.3, C7=0.7, C8=0.8)
#COLORWIDTH=(C128=0.01, C254=0.01, C255=0.01)
```

```

# all vector (without symbol) linewidth fat (default:0.0)
#ALL_LINEWD_FAT = 0.0
# Lower 200DPI linewidth fat (use FAX) (default:0.0)
#200DPI_LINEWD_FAT = 0.0
#symbol line_width (unit:mm) (0.0 --> 20.0mm)
SYMBOL_LINEWIDTH = 0.01
# output size (unit:mm) (0.01 --> 1189.0*6)
#OUTPUT_SIZE_X = 1000.0
#OUTPUT_SIZE_Y = 596.0
# output resolution (unit:DPI) (36 --> 600)
OUT_RESOLUTION = 400
# raster working memory (unit:Mbytes)
BUNDLE_MEMORY = 32.0
#BUNDLE_MEMORY = 10.0
# output device scale (0.9 --> 1.1) (default:1.0)
DEVICE_SCALE = 1.0
# auto offset & auto paper_size margin (unit:mm (default:0.0)) : used -g option
AUTO_OFFSET_X = 0.0
AUTO_OFFSET_Y = 0.0
# filling mode on(1)/off(0)
#FILL_MODE = 1
# paper margin (unit:mm) (default:0.0) (0.0 --> 999.99)
PAPER_MARGIN_X = 0.0
PAPER_MARGIN_Y = 0.0
# dashline cap (0:cut , 1:circle (default) , 2:square)
#DASHLINE_CAP = 0
# TIFF byte order (default:MPU depend , motorola:M , intel:I)
#TIFF_BYTEORDER=I
#TIFF_BYTEORDER=M
# if -a(-aj) on , space_area (0:no cut (default) , 1:cut)
#CUT_SPACE_AREA = 1
# output paper_size overflow limits (unit:mm) (0-->100 (default:5)) (-aj option on)
PAPER_X_LIMITS = 10.0
PAPER_Y_LIMITS = 10.0
# dashline pattern down/up ratio (10%-->900%) (default:100%)
#DASH_DOWN_RATIO = 100
#DASH_UP_RATIO = 100
# TIFF page tag output (Y/N)
#TIFF_PAGETAG = N
# output area size expand (only -g) (0.0-->100.0mm) (default:0.0)
#OUTAREA_UP_X = 0.5
#OUTAREA_UP_Y = 0.5
# 1dot control (0:1_dot , 1:depend on line_width (default))
#SAME_PT_DOT = 0
# A_series paper out (-g option) (Y:yes, N:no (input_size) (Default))
#A_PAPER_OUT = Y
# width byte boundary (0:off (default), byte_bound(1, 2, 4))
BYTE_BOUNDARY_X = 1
# height byte boundary (0:off (default), byte_bound(1, 2, 4))
BYTE_BOUNDARY_Y = 1
# output dot size (unit:dots)
#OUTPUT_DOT_X = 1728
#OUTPUT_DOT_Y = 2286
# DXFinput clip mode (1:std. clip , 2:DXFclip)
#CLIP_MINMAX=2
#####end rasl_out.atr#####

```

・ 出カラスターデータ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (rascl\_out.atr)

```
#####rascl_out.atr#####
# output version (TIFF, NO_COMPRESS, SUN_RASTER, XWD, BMP)
#OUT_VERSION=TIFF_NON
OUT_VERSION=TIFF_PACK
#OUT_VERSION=SUN_RASTER
#OUT_VERSION=NO_COMPRESS
#OUT_VERSION=XWD
#OUT_VERSION=BMP
#OUT_VERSION=HPRTL_ROW
#OUT_VERSION=HPRTL_NON
#OUT_VERSION=HPRTL_PACK
#symbol height_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMHT=1.0
# symbol width_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMWD=1.0
# symbol space (unit:mm) (0.0 --> 99.99)
OUT_SYMSP=0.0
#line type pattern set(pattern_length * scale_factor) (unit:mm)
DOT_LINE = 1.0, 1.0
DASH_LINE = 2.0, 1.0
CENTER_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
DIVIDE_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
# linewidth available(Y:attribute(default),N:input data)
#ATR_LINEWIDTH = N
#ATR_LINEWIDTH = Y
# color/width cross conversion table(max 256 tables)
COLORWIDTH=(C1=0.1, C2=0.2, C3=0.3, C4=0.4, C5=0.5, C6=0.6, C7=0.7, C8=0.8)
# output size (unit:mm) (0.01 --> 999.99)
#OUTPUT_SIZE_X = 100.0
#OUTPUT_SIZE_Y = 100.0
# output resolution (unit:DPI) (36 --> 600)
OUT_RESOLUTION = 200
# paper margin (unit:mm) (0.0 --> 999.99)
PAPER_MARGIN_X = 0.0
PAPER_MARGIN_Y = 0.0
# index color table (0 --> 254)
COLORRGB=(C1=0,0,0, C2=1000,0,0, C3=0,1000,0, C4=1000,1000,0, C5=0,0,1000)
COLORRGB=(C6=1000,0,1000, C7=0,1000,1000)
COLORRGB=(C8=0,0,0, C9=1000,0,0, C10=0,1000,0, C11=1000,1000,0, C12=0,0,1000)
COLORRGB=(C13=1000,0,1000, C14=0,1000,1000, C15=1000,1000,1000)
COLORRGB=(C16=0,0,0, C17=1000,0,0, C18=0,1000,0, C19=1000,1000,0, C20=0,0,1000)
COLORRGB=(C21=1000,0,1000, C22=0,1000,1000, C23=1000,1000,1000)
# color order (0:point, 1:line, 2:face) (only set NO_COMPRESS)
#COLOR_ORDER = 2
# color format (0:index, 1:RGB) (only set NO_COMPRESS)
COLOR_FORMAT = 1
# gamma table file
#GAMMA_FILE=gamma.tbl
#symbol line_width (unit:mm) (0.0mm --> 20.0mm)
#SYMBOL_LINEWIDTH = 0.1
# raster working memory (unit:Mbytes)
BUNDLE_MEMORY = 32.0
# output device scale (0.9 --> 1.1)
DEVICE_SCALE = 1.0
# auto offset & auto paper_size margin (unit:mm)
AUTO_OFFSET_X = 0.0
AUTO_OFFSET_Y = 0.0
# filling mode on(1)/off(0)
FILL_MODE = 1
# dashline cap (0:cut, 1:circle(default), 2:square)
#DASHLINE_CAP = 0
# if -a(-aj) on, space_area (0:no cut(default), 1:cut)
#CUT_SPACE_AREA = 1
# output paper_size overflow limits(unit:mm) (0-->100(default:5)) (-aj option on)
PAPER_X_LIMITS = 10.0
PAPER_Y_LIMITS = 10.0
# dashline down/up ratio (unit:%, default:100%) (10 --> 900)
```

```
#DASH_DOWN_RATIO = 50
#DASH_UP_RATIO = 200
# TIFF page tag output (Y/N(default))
#TIFF_PAGETAG = N
# output area size expand(only -g) (0.0-->100.0mm) (default:0.0)
#OUTAREA_UP_X = 0.5
#OUTAREA_ntrol(0:1_dot ,1:depend on line_width(default))
#SAME_PT_DOT = 0
# A_series paper out(-g option) (Y:yes,N:no(input_size) (Default))
#A_PAPER_OUT = Y
# width byte boundary(0:off(default), byte_bound(1, 2, 4))
BYTE_BOUNDARY_X = 1
# height byte boundary(0:off(default), byte_bound(1, 2, 4))
#BYTE_BOUNDARY_Y = 1
# output dot size(unit:dots)
#OUTPUT_DOT_X = 1728
#OUTPUT_DOT_Y = 2286
# DXFinput clip mode(1:std. clip , 2:DXFclip)
#CLIP_MINMAX=2
#####end rascl_out.atr#####
```

## サンプル例

### <操作例 1>

OFI ファイル(sample.ofi)を同じ大きさのTIFF ファイル(sample.tif)へ変換します。  
原点移動を行い入力データの最小値を第一象限の(0,0)へ移動します。

```
D:\>OFI2RS sample.ofi -Osample.tif -AG -I  
  
Copyright(c) 1992-2011 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.  
  
ofi(sample.ofi) -> RASTER(sample.tif) ファイル コンバータ  
  
ただいま、ファイル変換中です。  
  
入力データの範囲 (単位:mm)  
Xmin=xxx Ymin=xxx Xmax=xxx Ymax=xxx  
  
出力データの範囲 (単位:mm)  
Xmin=xxx Ymin=xxx Xmax=xxx Ymax=xxx  
  
ベクター/ラスター変換処理 100%終了  
  
OFI2RS変換終了
```

### <操作例 2>

OFI ファイル(sample1.ofi)を90度回転してTIFF ファイル(sample1.tif)へ変換します。

```
D:\>OFI2RS sample2.ofi -Osample2.tif -R90 -I  
  
Copyright(c) 1992-2011 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.  
  
ofi(sample2.ofi) -> RASTER(sample2.tif) ファイル コンバータ  
  
ただいま、ファイル変換中です。  
  
ベクター/ラスター変換処理 100%終了  
  
OFI2RS変換終了
```

### <操作例 3>

OFI ファイル(sample.ofi)を2倍にスケールを行いTIFF ファイル(sample.tif)へ変換します。  
その際に短軸がA0の縦方向、長軸がA0横方向の2倍のサイズ内に自動スケールされます。

```
D:\>OFI3RS sample3.ofi -Osample3.tif -S2.0 -A -P101  
  
Copyright(c) 1992-2011 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.  
  
ofi(sample3.ofi) -> RASTER(sample3.tif) ファイル コンバータ  
  
ただいま、ファイル変換中です。  
  
ベクター/ラスター変換処理 100%終了  
  
OFI3RS 変換終了
```

※ 出力属性ファイルの「OUT\_VERSION」のパラメータにTIFFフォーマットが設定されている必要があります。

## オプション製品

製品名	製品概要	標準価格 (税抜き)
KDCONV_DIR (階層構造一括変換)	階層構造の各フォルダ内に散らばっている必要なファイルを拡張子で指定し、下層フォルダまで一括変換します。	15万円
KDauto_trans(標準版) (自動監視・自動変換)	監視フォルダへ入力データを格納する事で自動的にデータ変換を行い変換結果の指定したフォルダへ作成します。 また、変換結果のファイルを印刷、ファイル転送、指定した別のフォルダへのファイル出力が可能です。	20万円
JIS 第二水準ベクター フォントファイル	JIS 第二水準フォントファイルです。 文字を線分化する際に使用します。	30万円

## 制限事項

- ◆ **多重起動について**  
OFI2RSの製品を同一 CPU 上で多重起動する事はできません。  
多重起動が原因で発生した問題等についてサポートはできません。  
また、別の弊社の製品と組合せて使用する場合も同様となります。
- ◆ **CAD独自の文字(制御コード, 外字等)について**  
対応しておりません。
- ◆ **OFIについて**  
CADからOFIファイルへ出力する際に、正常に文字コードが出力されている必要があります。  
また、文字データは、CADと同じ形状に変換することは出来ません。  
CADからOFIファイルへ出力する際に文字列ではなくベクターデータとしてを出力することを推奨します。
- ◆ **長尺対応(A0サイズ以上)について**  
出力フォーマットに依存します。
- ◆ **ラスターについて**  
出力されるラスターデータはOFIデータに依存します。  
そのためMicroCADAM上での表示結果と同じにならない場合があります。